



## 経済の現場から商学部をサポート アドバイザー・パネルが初代会合

8月16日、ホテル阪急インターナショナルを会場に、商学部アドバイザー・パネルの2005年度第1回会合が開かれ、外部委員では辻 晴雄シャープ相談役、宮原 明富士ゼロックス相談役、池田隼啓日本税理士会連合会近畿税理士会会長など6人が参加され、学部側委員10名と懇談を行いました。

アドバイザー・パネルについては本紙第2号で紹介していますが、経済界の第一線で活躍する財界人・公認会計士などの専門職業人が、ビジネス現場での経験をもとに、商学部の教育活動にアドバイスをを行い、時には委員が講演や講義を担当する商学部のサポート組織です。今回は、大学教育について意見交換を行うとともに、経済界から見た関学像について率直な意見を求めました。委員からは学生の基礎学力の低下、他大学生に比して活力が感じられない関学学生の現状に苦言が呈され、学部運営に対しては簿記の必修化やプレゼンテーションなどの新しい科目の導入といった、具体的な意見が出されました。

今後の動きとしては、外部委員による講演会の開催、寄附講座の実施さらには演習に参加いただくなどの具体的な教育プログラムの展開が予定されています。

## 2005年度春学期の商学部卒業者は23名

去る9月20日、2005年度春学期大学卒業式が行われ、全学部で149名、商学部からは23名が学士号を授与されました。

## 自動車通学禁止・ バイク通学自粛キャンペーン

2005年度第2回自動車通学禁止・バイク通学自粛キャンペーンが来月11月に実施されます。今回も全学をあげて仁川百合野町から上ヶ原四番町周辺まで5ポイントに分かれて行われます。前回のキャンペーンでは依然として迷惑駐車をする学生が見受けられました。近隣の住民の皆さんへの迷惑を十分に配慮して自動車通学禁止・バイク通学自粛に積極的にご協力ください。

## ゼミ募集始まる！

商学部では、少人数教育の柱として“ゼミ(「研究演習」と「研究演習」)”を位置づけています。毎年、秋学期の

開始と同時に“ゼミ募集”が始まります。2年生が自分自身で、来年度の所属ゼミを決めるといった仕組みです。既に商学部では、研究演習履修のための説明会を9月下旬に行いました。今年からは商学部のWeb上で、『研究演習履修案内』を配布しています。各先生の開催する「ゼミ説明会」に出席し、「研究室への訪問」を積極的に行い、自分の将来を自分自身の力で開拓していきましょう。1年生は、来年のこの時期までに、商学部で何を学びたいかをより明確にしておきましょう！

## 2006年夏、参加者募集中 大学洋上セミナーひょうご2006

30日間の船旅でアジア太平洋地域をめぐる洋上セミナーが、来年も8月から9月にかけて実施されることになり、現在参加者の募集が行われています。兵庫県内の4年生大学と兵庫県国際交流協会が主催するこの催しは、豪華客船をキャンパスに、訪問国学生とのディスカッションや船上講義、参加学生間でのディベート大会など多文化ワールドを体験するとともに、フルコースディナーなどの船上生活を楽しまします。

参加資格は兵庫県内の4年制大学生。参加費用などの問い合わせは、教務課または兵庫県国際交流協会(078-230-3260)まで。

## 「外国人CEOの視点」テーマに 10月18日4限 B号館203号教室、学術講演会を開催

10月18日(火)4限に、富士火災海上保険株式会社 代表執行役社長CEOのビジャン コスロシャヒ氏を招き、商学部学術講演会を開催します。同氏は1986年にAIGデータセンターに入社、1995年にAIGカンパニーズ米国損保営業部門大西洋岸中部諸州地域担当リージョナルバイスプレジデントに就任、2001年AIGジェネラル社社長を経て、2004年5月に現職に就任されています。

日本の保険業界がかつて経験したことのない激変期に、様々な国でのマネジメントを経てCEOに就任して1年。既に文化、会計制度、人材管理、ビジネス戦略等に日本のシステムの大きな特徴を見出されています。これらの特徴を踏まえ、富士火災の変革をどのようにマネジメントしているかについて、外国人CEOの視点から語られます。

## 支給奨学金

通常の間学奨学金以外に、商学部生が応募できる支給型の奨学金として、「海堀奨学金」があります。6月中旬に募集があり(現住所が大阪府下にある3年生のみ応募可能)、月額2万5千円が支給されます。また、学術・文化・スポー

ツ活動等において成果をあげた学生が応募できる「関西学院大学奨励奨学金」は、4月に募集があり、例年学術部門で2名、文化・スポーツ部門で4名の商学部生が採用され、奨学金(2005年度実績：一括7万円)の支給を受けています。

## 平松教授が日本学術会議会員に 全国76万人の科学者の代表として活躍

平松一夫教授（専攻・会計学）が10月1日、日本学術会議の会員に就任されました。日本学術会議はわが国の人文・社会科学、自然科学全分野の科学者の意見を国内外に発信する日本の代表的機関です。科学の向上発達を図り、行政、産業および国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、内閣総理大臣の所轄のもとに「特別機関」として設置され、全国約76万人の科学者の代表として選出された210人の科学者で構成されています。

任期は、本年10月1日から2011年9月30日までの6年間。



## 秋のチャペル 商学部教員のチャペルトーク

商学部チャペルは秋学期も火～金曜日の週4回です。秋学期は特に、商学部の教員によるチャペルトークを中心に行います。普段の授業では聞くことのできない、貴重なお話しに接する機会です。これまで知らなかった、先生の一面を知って驚くこともあるでしょう。商学部事務室横の予定表を見てぜひ参加してください。木曜日の英語チャペルもお忘れなく！また 10月第3週は恒例の大学キリスト教週間です。他学部との合同チャペルが中央講堂で行われます。

## 教員の著書出版

### 海道ノブチカ教授

単著 『ドイツの企業体制 ドイツのコーポレート・ガバナンス』（森山書店）

頒価2,800円。 2005年9月28日発行。

### 新倉貴士教授

単著 『消費者の認知世界 ブランドマーケティング・パースペクティブ』（千倉書房）

頒価2,800円。 2005年9月20日発行。

## 教員の受賞

### 平松一夫教授

「Outstanding International Accounting Educator Award」を、国際会計教育の推進に顕著な功績があるとして、2005年8月8日付けで、アメリカ会計学会から受賞。

### 林 隆敏教授

「第13回青木賞」を、著書『継続企業監査論』（中央経済社刊）で示された研究内容を対象として、2005年9月15日付で日本内部監査協会から受賞。

## ただ今、海外留学中です

### 林 隆敏教授

期 間：2005年9月～2006年8月

留学先：カナダ・ウオータールー大学

研究テーマ：監査業務に従事する公認会計士を被験者とした実験研究

### 阿部卓也助教授

期 間：2005年10月1日～2006年3月31日

留学先：スロヴェニア・リュブリャナ大学

研究テーマ：ペーター・ハントケ研究およびスロヴェニア研究

### 岡村秀夫助教授

期 間：2005年10月～2007年9月

留学先：イギリス・ロンドン大学

研究テーマ：金融市場とコーポレートファイナンスに関する理論と実証

### 木山 実助教授

期 間：2005年10月～2007年9月

留学先：アメリカ・カリフォルニア大学サンタバーバラ校  
研究テーマ：戦前期日本企業の在米活動および日本史研究の現状

<注>上記教員の他、山口隆之助教授が留学中（本紙第1号参照）

## ただ今、国内留学（特別研究期間）中です

### 岩松正洋助教授

期 間：2005年秋学期中

研究テーマ：ポストリアリスト小説における語りの問題

## << 教員紹介 >>



### 杉原 左右一 教授

21世紀に入り、私達の生活は今やコンピュータ無くしては成り立たなくなっていますが、その背後には私の研究分野に関連する統計科学や、情報科学、数学の20世紀に於ける目覚ましい発展があります。統計科学では数理的な考え方もさ

ることながら、創造的なものを見方を持つことが最も肝要であるというのが私の持論です。私は今年還暦を迎えますが、若い皆さんが無数の発展の可能性を持つこの分野で、夢を抱いて大きく羽ばたかれることを期待するものです。



### 伊藤 秀和 専任講師

高校卒業までの18年間を故郷の岐阜県恵那市で、大学・大学院の9年間を東京で過ごしました。2003年から商学部で教育・研究をしています。大学では都市計画・交通計画を、大学院では都市・地域・交通経済学を専攻し、現在は流通・マーケティングコースで

交通論やロジスティクス論を中心に授業をしています。最近は数学離れが顕著ですが、社会科学も立派な「科学」です。科学的な物の見方・考え方を、授業でも伝えたいと思っています。